

事業者排出量削減報告書

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都府京都市下京区東堀川通り堀小路下ル松明町1丁目						
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	株式会社 ロイヤルホテル リーガロイヤルホテル京都		総支配人	廣間 準一			
事業者の主たる業種	ホテル業						
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第2号又は第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都府地球温暖化対策条例施行規則第10条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））						
計画期間	平成20年4月～平成23年3月						
基本方針	エネルギー消費効率の改善及び廃棄物排出の削減						
推進体制	総支配人を本部長として省エネルギー推進委員会を設置 委員長を管理部長 事務局は施設チームとする。 環境マネジメントシステム名称 適用範囲 取得年月日						
年度ごとの具体的な取組及び措置の状況	年度	設備、対象、工程等	措置内容				
	19	設備、工程等	照明器具設定温度72℃から60℃に設定変更。4階客室居室照明を電球から蛍光灯に69室変更18,566Wを2,450Wに16,116W削減。				
	20	設備	5階客室居室照明を電球から蛍光灯に60室変更17,590Wを2,275Wに15,315Wの削減。業務用冷蔵庫1台インバーター制御型に更新。				
	20	設備	客室ブラウン管式テレビ等を液晶テレビに取替489台。9階バンケットルーム照明変更1,440Wを368Wに1,072Wの削減。空調機の運転時間変更。				
温室効果ガスの排出量等	排出区分	基準年度（実績） （19）年度 （二酸化炭素換算）	目標年度（計画） （22）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （計画）	報告年度（実績） （20）年度 （二酸化炭素換算）	増減率 （実績）	
	A 事業所等排出区分	6,571.0 t	6,373.0 t	-3.0 %	6,057.2 t	-7.8 %	
	B 輸送車両排出区分	t	t	%	t	%	
	C その他排出区分	t	t	%	t	%	
	排出合計	*1 6,571.0 t	*2 6,373.0 t	-3.0 %	*4 6,057.2 t	-7.8 %	
	実績に対する自己評価	1.古い機器の更新計画を回り高効率機器へ取替し、省エネ促進を行っている。 2.各所照明用電球及び蛍光灯の球種変更及び電球を蛍光灯に取替で省エネ促進を行っている。 3.宴会準備時間帯の照明照度変更及び空調運転設定変更による省エネ促進を行っている。 4.各空調機の運転は、季節により運転時間を変更し省エネ促進を行っている。 5.従業員全員の省エネルギー意識の向上 等以上の効果により削減できたもの。					
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）
	リーガロイヤルホテル京都	二酸化炭素換算 延べ床面積（43千㎡）	153.0	148.0	-3.3 %	140.865	-7.9 %
	リーガロイヤルホテル京都	二酸化炭素換算 ホテル利用人数（千人）	6.276	6.087	-3.0 %	6.222	-0.9 %
		二酸化炭素換算			%		%
	実績に対する自己評価	1.古い機器の更新計画を回り高効率機器へ取替し、省エネ促進を行っている。 2.各所照明用電球及び蛍光灯の球種変更及び電球を蛍光灯に取替で省エネ促進を行っている。 3.宴会準備時間帯の照明照度変更及び空調運転設定変更による省エネ促進を行っている。 4.各空調機の運転は、季節により運転時間を変更し省エネ促進を行っている。 5.従業員全員の省エネルギー意識の向上 等以上の効果により削減できたもの。					
その他の地球温暖化対策による温室効果ガス削減量等	対策等の区分	目標年度（計画）			報告年度（実績）		
	森林の保全及び整備	取組量等	（二酸化炭素換算）		取組量等	（二酸化炭素換算）	
	府内産の木材の利用	（整備面積）	ha	（吸収量）	t	（整備面積）	ha
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給	（利用量）	m ³	（削減量）	t	（利用量）	m ³
	グリーン電力の購入	（売電量）	kwh	（削減量）	t	（売電量）	kwh
		（熱供給量）	GJ	（削減量）	t	（熱供給量）	GJ
		（購入量）	kwh	（削減量）	t	（購入量）	kwh
	削減量等合計			*3 t		*5 t	
差引排出量 （排出合計－削減等合計）	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）	報告年度（実績）	増減率（実績）		
	*1 6,571.0 t	*2-(*3) 6,373.0 t	-3.0 %	*4-(*5) 6,057.2 t	-7.8 %		
地球温暖化対策に資する社会貢献活動	京都市 ライトダウン行動に参加 平成17年から生ゴミ循環システム導入						
特記事項	1 平成13年度特高受変電機器を高効率器に取替及び平成14年度高圧変電機器を高効率器に取替 損失に寄与する。 2 平成15年度N.O.1ターボ冷凍機400USRT 365kWを高効率型420USRT 334kWに更新 3 平成16年度N.O.2ターボ冷凍機400USRT 365kWを高効率型420USRT 334kWに更新 平成17年度ボイラー燃料転換 A重油→都市ガス13A 約8,138CO2削減 5 平成18年度特高受電 契約電力変更2,650kW→2,600kW ピークカットと共に常時使用電力に注意する。						

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。特定事業者以外の事業者の方はレ印の記入は不要です。
 2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度を、「報告年度」とは計画期間のうち、今回報告の対象となる年度をいいます。
 3 「事業所等排出区分」とは京都府内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を京都府内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の京都府内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。
 4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○、□、正則、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（生産数量、延べ床面積、走行距離等）を記入してください。
 5 「その他の地球温暖化対策による温室効果ガスの削減量等」のうち「森林の保全及び整備」の「目標年度（計画）」欄には計画期間中の目標の累計を、「報告年度（実績）」欄には実績の累計を記入してください。
 6 「特記事項」には、平成2年度（1990年度）を基準とした排出量の対比や、省エネ製品開発など他者の温室効果ガス排出削減への貢献、グリーン調達の実用、特定フロンなどの条則指定外の温室効果ガスの削減などを記入してください。